

令和6年 8月 20日

国立がん研究センター理事長 殿
国立がん研究センター中央病院長 殿

国立がん研究センター中央病院
医療安全外部監査委員会
委員長 山本 修一

令和6年度第1回医療安全外部監査委員会 監査結果報告書

1. 日 時 : 令和6年6月4日(火) 14時00分～16時00分 管理棟1階 第1会議室

2. 監査委員

独立行政法人地域医療機能推進機構	山本 修一	理事長
千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部	相馬 孝博	副院長／部長
順天堂大学医学部 心臓血管外科学・病院管理学	川崎 志保理	客員准教授
さわやか法律事務所	田島 優子	弁護士(WEB参加)
一般社団法人 CSR プロジェクト	桜井 なおみ	代表理事

3. 令和5年度第2回医療安全外部監査委員会監査結果に対する当院の対応

- 1) 放射線オーダの誤りなど、現在、疑義照会報告としているインシデントについては、医師へのフィードバックを確実に実施し、事象の再発防止に努めていただきたい。また、現状の集計方法や報告体制については、再検討をお願いする。

<対応>

誤った放射線検査オーダの多い診療科へは診療科カンファレンスの場で現状をフィードバックし、再発防止策の検討と実施を依頼した。

また、この問題について今年度の重点課題として管理目標に掲げ、誤った放射線検査オーダの件数とオーダ医師については放射線技術部より報告され、定期的に医療安全管理室から医師へフィードバックし、インシデント報告システムで背景要因と対策などを記載して報告してもらう取り組みを開始している。(委員会了承)

- 2) 院内の簡易迅速検査使用の実態とパニック値に対する報告体制について、次回、現状をご報告いただきたい。また、フローやマニュアルがあれば、併せてご提示いただきたい。

<対応>

院内(臨床検査部門以外)の簡易迅速検査には、血液ガス、心筋マーカー、血糖測定がある。血液ガスと心筋マーカー測定機器は、手術室とICUに設置されており、医師もしくは看護師が実施し、測定結果は必ず依頼医へ報告している。また、血糖測定については、患者毎にDrコールの指示に基づいた報告体制が構築されている。(委員会了承)

- 3) 造影剤を含め、院内すべての医薬品を医薬品安全管理責任者が把握し、管理している体制について、次回ご報告いただきたい。

<対応>

医薬品業務手順書の遵守状況について確認した内容を記録し、担当薬剤師から医薬品安全管理者に報告する体制となっている。さらに、放射線診断・放射線治療部門については、放射線管理区域に造影剤等が保管されていることもあり、看護師以外にも医師と診療放射線技師と協働し、医薬品業務手順書の遵守状況を確認している。常備薬の保管管理について、定数変更する際は医師、看護師、薬剤師で協議したうえで医療事故等防止対策委員会に申請する運用とし、薬剤師が常備薬の保管管理に積極的に関与できる体制とした。(委員会了承)

- 4) インシデント事例の再発防止策や管理目標の達成に向けて、抜本的な改善活動がなされているか監査するため、本委員会毎に医療事故等防止対策委員会の議事要旨を提示いただきたい。

<対応>

医療事故等防止対策委員会議事要旨(10月～3月)、事故調査報告書(3事案)を提示した。今後継続して、医療事故等防止対策委員会議事要旨など、改善活動を検討した会議の議事録を提示する。(委員会了承)

4. 令和6年度第1回医療安全外部監査委員会 監査結果

- 1) 年度毎に定められている管理目標については、根拠に基づく目標値を設定して取り組みを行うことで目標値に近づいている事項がある一方で、数年間変化がない事項もみられる。変化がない事項については、引き続きモニタリングを継続するという方針でお願いしたい。
また、職員に対し目標値を定めた根拠の説明をすることで、職員に理解されやすく、職員からの更なる協力が得られやすいためご検討いただきたい。
- 2) 患者の病状急変は命に関わるため、採血時に何を測定すべきか判断に迷わないよう、「急変時採血セット」の作成をご検討いただきたい。

5. 総評

毎回指摘したことに関して、次回までに真摯に対応されており、素晴らしい取り組みが継続されていることを確認した。今回、事故調査委員会の調査報告書を提示いただいたが、院内でしっかりと議論や対策立案ができていることが確認できた。手指衛生の医師の協力からも、非常に良い組織文化を醸成されていることが理解できる。特定機能病院は一般病院の見本となるべき立場と理解しているため、取り組む職員は大変だと思うが、引き続き、医療安全の取り組みにご尽力いただきたい。

以上